

Ⅳ 市民会館・公民館の状況

1 市民会館・公民館施設概要

会館は、基本的には多様な文化諸活動に対応しつつ（市民会館）教育機関としての公民館の機能を果たしていく施設として、昭和52年6月に開館した。

敷地面積 4,937.07m² 建設延床面積 6,771.253m²

鉄筋コンクリート造り、地下1階、地上3階の構造

その施設、設備、職員を通じ

- (1) 市民の出あい場（ひろば）
 - (2) 集団活動のよりどころ
 - (3) 人間（市民）としての向上の場（市民の大学）
 - (4) 芸術、文化、娯楽の鑑賞と創造（劇場、音楽堂）
- の役割を果たしている。

また、武蔵野台地区、熊川地区に社会教育活動の拠点として、地域のさまざまな文化創造の場として公民館分館（松林分館、白梅分館）がある。

- (1) 松林分館（武蔵野台地区）が、昭和54年5月に開館した。

敷地面積 1,104.98m² 建設延床面積 564.3m²

鉄筋コンクリート造り、2階の構造

- (2) 白梅分館（熊川地区）が昭和55年5月に開館した。

敷地面積 2,158.03m² 建設延床面積 570.59m²

鉄筋コンクリート造り、2階の構造

2 市民会館・公民館利用状況

施設名 区 分 月別			4			5			6			7			8			9			1 0			1 1			1 2			1			2			3			合 計		
			有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 計	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数			
市 民 会 館	ホ ー ル	大 ホ ー ル	19		19	11		11	31		31	21		21	10		10	14		14	28		28	52		52	18		18	16		16	23		23	38		38	281		281
		小 ホ ー ル	26		26	24		24	15		15	42		42	5		5	26		26	23		23	26		26	20		20	8		8	10		10	28		28	253		253
		小 計	45		45	35		35	46		46	63		63	15		15	40		40	51		51	78		78	38		38	24		24	33		33	66		66	534		534
	集 会 室 等	リハーサル室	6	4	10	0	5	5	8	6	14	6	8	14	2	6	8	0	9	9	16	4	20	2	25	27	6	9	15	6	6	12	7	5	12	3	7	10	62	94	56
		第1集会室	11	31	42	8	15	23	2	46	48	4	41	45	2	23	25	4	26	30	5	28	33	4	24	28	3	20	23	4	16	20	4	24	28	14	22	36	65	316	381
		第2集会室	9	33	42	4	31	35	2	46	48	5	43	48	3	29	32	2	38	40	8	33	41	4	39	43	0	27	27	4	29	33	5	28	33	13	33	46	59	409	468
		第3集会室	13	28	41	5	24	29	6	45	51	2	47	49	1	27	28	2	47	49	10	44	54	4	34	38	2	38	40	1	34	35	3	45	48	4	43	47	53	456	509
		第4集会室	20	21	41	2	29	31	6	36	42	5	28	33	0	20	20	3	33	36	10	30	40	10	28	38	4	30	34	6	26	32	11	34	45	10	31	41	87	346	433
		第5集会室	17	23	40	2	34	36	5	40	45	5	44	49	5	29	34	8	31	39	14	23	37	11	30	41	4	26	30	6	25	31	10	27	37	11	31	42	98	363	461
		第6集会室	6	21	27	4	15	19	9	20	29	3	23	26	3	14	17	10	30	40	8	30	38	4	22	26	6	23	29	2	22	24	6	27	33	2	36	38	63	283	346
		第7集会室	0	19	19	1	13	14	5	19	24	0	20	20	0	14	14	6	26	32	2	29	31	0	20	20	4	19	23	5	19	24	3	26	29	0	34	34	26	258	284
		第8集会室	9	6	15	9	8	17	12	7	19	4	9	13	10	7	17	5	6	11	22	8	30	5	17	22	2	3	5	3	7	10	12	10	22	7	5	12	100	93	193
		展 示 室	0	0	0	0	0	0	0	6	6	0	7	7	0	24	24	0	0	0	3	12	15	0	9	9	0	0	0	0	0	0	0	14	14	0	0	0	3	72	75
		小 計	91	186	277	35	174	209	55	271	326	34	270	304	26	193	219	40	246	286	98	241	339	44	248	292	31	195	226	37	184	221	61	240	301	64	242	306	616	2690	3306
		計	136	186	322	70	174	244	101	271	372	97	270	367	41	193	234	80	246	326	149	241	390	122	248	370	69	195	264	61	184	245	94	240	334	130	242	372	1150	2690	3840
公 民 館	調 理 室	0	18	18	2	13	15	0	27	27	2	31	33	0	26	26	1	14	15	0	41	41	1	18	19	0	22	22	0	6	6	0	19	19	1	26	27	7	261	268	
	美 術 室	0	7	7	0	15	15	0	6	6	0	16	16	0	8	8	0	20	20	0	33	33	0	8	8	0	5	5	0	7	7	0	12	12	0	26	26	0	163	163	
	音 楽 室	0	40	40	1	25	26	0	28	28	2	24	26	2	31	33	4	19	23	0	39	39	3	17	20	0	12	12	1	26	27	0	26	26	1	28	29	14	315	329	
	視聴覚室	0	22	22	0	19	19	0	25	25	0	23	23	1	32	33	0	26	26	0	40	40	0	16	16	1	20	21	0	18	18	1	29	30	0	21	21	3	291	294	
	児 童 室	0	18	18	1	21	22	2	25	27	4	20	24	0	4	4	3	21	24	1	22	23	2	6	8	1	21	22	2	14	16	0	27	27	0	22	22	16	221	237	
	計	0	105	105	4	93	97	2	111	113	8	114	122	3	101	104	8	100	108	1	175	176	6	65	71	2	80	82	3	71	74	1	113	114	2	123	125	40	1251	1291	
合 計			136	291	427	74	267	341	103	382	485	105	384	489	44	294	338	88	346	434	150	416	566	128	313	441	71	275	346	64	255	319	95	353	448	132	365	497	1190	3941	5131

松 林 会 館 利 用 状 況

		58年 4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	59年 1 月	2 月	3 月	合 計
主 催 事 業	件数	19	28	39	36	20	31	40	19	17	14	27	35	325
	人員	524	997	499	494	333	486	3,167	302	261	211	310	569	8,153
住 民 の 社会教育活動	件数	105	71	103	102	64	83	88	86	83	66	81	92	1,024
	人員	1,704	939	1,779	1,798	980	1,402	1,106	1,115	1,158	915	929	1,246	15,071
公 共 的 団 体	件数	8	12	7	13	20	8	2	7	2	6	8	8	101
	人員	136	279	75	276	472	131	14	120	14	119	200	162	1,998
政治・宗教団体	件数	6	5	4	4	4	4	6	5	5	3	3	1	50
	人員	240	305	225	208	240	240	315	290	310	195	160	65	2,793
企 業	件数	0	0	0	1	1	6	3	0	0	0	0	0	11
	人員	0	0	0	10	25	208	151	0	0	0	0	0	394
そ の 他	件数	5	11	10	10	6	4	7	11	10	10	16	19	119
	人員	105	242	120	161	143	69	100	231	220	181	243	374	2,189
合 計	件数	143	127	163	166	115	136	146	128	117	99	135	155	1,630
	人員	2,709	2,762	2,698	2,947	2,193	2,536	4,853	2,058	1,963	1,621	1,842	2,416	30,598

白 梅 会 館 利 用 状 況

		58年 4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	59年 1 月	2 月	3 月	合 計
主 催 事 業	件数	6	31	24	18	14	25	25	17	11	8	7	20	206
	人員	165	1,626	395	310	384	358	371	192	203	73	147	466	4,690
住 民 の 社会教育活動	件数	117	94	121	122	84	115	127	129	109	82	139	139	1,378
	人員	1,981	1,420	2,046	1,928	1,291	1,814	1,907	2,027	1,945	1,344	2,094	2,013	21,810
公共(的)団体	件数	3	0	0	2	0	0	0	0	6	1	0	5	17
	人員	39	0	0	90	0	0	0	0	220	20	0	198	567
政治・宗教団体	件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
	人員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	60	0	0	60
企 業	件数	2	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	2	8
	人員	70	0	0	0	20	40	0	0	0	0	0	180	310
そ の 他	件数	7	5	5	8	6	11	14	8	8	1	0	6	79
	人員	146	108	92	190	89	103	259	75	116	30	0	110	1,318
計	件数	135	130	150	150	106	153	166	154	134	94	146	172	1,690
	人員	2,401	3,154	2,533	2,518	1,784	2,315	2,537	2,294	2,484	1,527	2,241	2,967	28,755

3 公民館運営審議会

公民館運営審議会は、館長の諮問に応じ、公民館における各種の事業の企画実施につき調査審議する機関である。この制度は社会教育法上必置制となっており、本市の場合、昭和56年10月から社会教育委員との兼任から独立し、任期2年・定数10名で構成されている。

本年度の審議会の会議内容は次のとおりである。

昭和58年7月16日(土) 午後6時 公民館

- ① 公民館の利用の現状
- ② 「公民館のつどい」について
- ③ 都公連委員部会報告

昭和58年10月29日(土) 午後7時 公民館

- ① 昭和59年度公民館事業計画について
- ② 都公連委員部会報告

昭和59年1月26日(木) 午後7時 公民館

- ① 昭和59年度公民館事業計画について

昭和59年3月1日(木) 午後7時30分 公民館

- ① 昭和59年度会館管理運営計画について

昭和59年3月23日(金) 午後7時30分 公民館

- ① 昭和59年度会館管理運営計画について

4 奨励・援助

(1) 人的援助

各団体、個人の相談に応じ、職員が必要な助言、指導、援助を行った。

分館を除き、公民館では、夜間における社会教育の活動が昼間より非常に多いことから、これら社会教育活動をする市民(団体)の相談にのり、必要な援助をするため、職員が1名残る体制をとっている。(午後5時から10時まで)

(2) 教材・教具等の利用

(3) 事務援助

印刷事務等

(4) 会場借上

大ホール 2回 (市民音楽祭、福生吹奏楽愛好会定期演奏会)

小ホール 1回 (福生市民コーラス定期演奏会)

内 月 内 訳	58年 4月	5	6	7	8	9	10	11	12	59年 1月	2	3	計
利 用 団 体	3	4	4	8	9	14	7	6	9	4	1	5	74
16ミリ映写機	2	4	3	5	6	8	4	2	4	3	1	6	48
8ミリ映写機						1	1	1		1			4
8ミリカメラ					1	1							2
スライド映写機						2	1	2					5
O H P								2	1				3
スクリーン	1	4	2	4	2	2	1	2	2	3		3	26
暗 幕	2	1		4	2	1	1	3	2	1		1	18
空 リ ー ル	1		1	2									4
テ-プレコ-ダー					1								1
トランシーバー							1						1
スポットライト							3		3				6
電源ドラムコード							1						1

立川社会教育会館フィルム配送サービス取扱い

内 月 内 訳	58年 4月	5	6	7	8	9	10	11	12	59年 1月	2	3	計
利 用 団 体	6	3	9	10	8	7	3	5	3	7	6	6	73
本 数	11	3	23	21	12	10	4	12	6	15	16	15	148

月平均 6.08団体 12.3本

5 公民館主催事業

(1) 幼 児

幼児室事業

幼児前期の子どもの成長、発達をはかるため、その興味・関心を育てながら、仲間をつくるちからを身につけ、仲間の中で遊び、行動するちから（社会性の基礎）を養う。このことが日常生活での友達づくりとなるようすすめてきた。

期 間 昭和58年5月9日から順次各コース開講し、10月7日全コース終了。

(10 コース、全 15 回)

会 場 公民館・松林分館・白梅分館

参加者 (14 人×1 C+15 人×7 C+16 人×2 C) × 15 回 = 2,265 人

—S58・4・24—

	実 施 コー ス	幼 児 数					延参加数	保護者数
		コース人数	1 才	2 才	3 才	4 才		
1	本館 月曜幼児室	15 ^人	1 ^人	10 ^人	4 ^人	0 ^人	225 ^人	14 ^人
2	水曜幼児室	15	8	2	5	0	225	13
3	木曜幼児室	15	6	8	1	0	225	13
4	金曜 幼児室	15	7	3	3	2	225	15
5	土曜幼児室	14	6	3	4	1	210	14
6	松林 月曜幼児室	15	3	3	8	1	225	12
7	土曜幼児室	16	7	5	3	1	240	11
8	白梅 水曜幼児室	16	6	6	3	1	240	14
9	木曜幼児室	15	3	5	6	1	225	11
10	金曜幼児室	15	0	6	8	1	225	14

内 容

●主題 「異年齢集団への適応と遊びのちから」、仲間の中で行動・創造する知力の発達。

●内容 幼児が集団の中で自立的行為ができるよう、①情緒安定をもとに、②幼児間のつながりを形成し、③能動的な共同行為となっていくことにむける。

●方法 ①集団での過ごし方等（全般的な基礎的生活習慣との関連）。

②遊び道具を用いた、自由遊び。

③紙芝居や創作による、想像力と創ることへの関心。

④集団遊び（複数の仲間での遊びと行動）。

●展開 Ⅰ 場への適応（情緒安定）、Ⅱ ひとり自由遊び、Ⅲ 複数の遊び（ごっこ遊び）

●指導 保母又は幼稚園教諭資格者 9 人

尚、事業終了後は、親達による保育者への指導依頼等により、自主的な幼児教育活動を実施。

総括 全15回の過程を通じ、大元のコースが、場への適応・みんなの中の自由ひとり遊び・複数の仲間遊びへと展開した。子ども同士の係わりから発生する相互作用が、社会性の発達（身体・知能・言語・情緒の発達を含む）となっていくため、更に、相互作用による興味・関心・行動への意欲につながる知力の発達について明らかにする。

幼児室運営会議

幼児が異年齢集団において、円滑な成長・発達をとげていくために、集団教育の場における、親・おとなの連携及び協力による育成となっていくよう実施した。

期 間 昭和58年4月～10月まで（全9回）

会 場 公民館

参加者 三者会議（20人×4回+26人）+保育者会議（9人×5回）=151人

(1) 三者会議

幼児が異年齢集団で発達していく様子を捉え、集団教育の場と家庭教育の場とが幼児の成長にむけてスムーズな結びつきとなり、日常近隣地区の中で子どもの仲間づくりと成長となることにむけ、親・保育者・職員による育成への三者研究を実施した。

(2) 保育者会議

幼児の異年齢集団での仲間づくり遊びの行動を通じての発達にむけ、①幼児の集団適応と発達分析から指導方針の分析、②集団教育の場の機能研究、③育児に関する親の教育力への相談や対応についての研究の機会として実施。

	月 日	運営会議名	内 容
1	4月28日	保育者会議	幼児育成事業、全展開の目標・内容・方法・指標について
2	5月23日	三者会議	保護者会役員紹介、幼児室事業 始期の様子、指導内容紹介、討議
3	5月27日	保育者会議	全コースの幼児の状況分析・始期から適応期の対応研究
4	6月22日	三者会議	7回目前後の幼児達の様子、仲間への係りへの兆、親の準備点検ほか
5	6月24日	保育者会議	全コースの動向分析、家庭における基礎的生活習慣の形成
6	7月21日	三者会議	10回目前後の幼児の様子（ケンカ・思いやり・ルール）、親達のこれからのつながり
7	8月26日	保育者会議	全コース動向分析と終盤の指導、週1回外夏の子の接触の意義
8	9月22日	〃	自主的な幼児教育活動への準備、及び実施のまとめ・反省
9	9月30日	三者会議	終盤の幼児達の様子、親達からみた幼児達の成長、自主化にむけて

以上の展開から10月以降には、親達による指導者依頼等で、自主的な幼児の集団教育（育成）の実施となる。

総括 幼児の育成にむけて、おとな（親・保育者・職員）の協議と役割の研究の場として実施した。特に、親は教育の主体として、①子どもの基礎的生活習慣の形成、②子どもが子どもの中で成長していくこと、③地域に、子どものための環境をつくる、といった相互学習の契機となった。

(2) 少年

たんけん教室

身近な自然の残る市内や近隣の滝山・草花丘陵・奥多摩の山々などを歩き、私たちの街の成り立ちを考える機会として実施した。

期 間 昭和58年4月23日(土)～昭和59年3月18日(日) 全17回

会 場 公民館および野外

参加者 23人 延246人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師	場 所
4. 23	オリエンテーション	自己紹介・教室の内容説明	岡田紀夫氏他	公 民 館
5. 14	市内河原たんけん	コンパスの使い方の練習	〃	多 摩 川
6. 26	草花たんけん	地図とコンパスを使う訓練	〃	草 花 丘 陵
7. 16	たんけんキャンプ打合せ	持ち物や日程等の打合せ	〃	公 民 館
7. 17	滝山たんけんⅠ（雨天中止）	滝山の地形を見て歩く	〃	
7. 26	} たんけんキャンプ	} サマーランド自然園の周辺 と秋川の水の様子を知る	〃	} サマーランド 自 然 園
7. 27			〃	
9. 18	奥多摩たんけん下見調査	高岩山周辺の地形を調べる	〃	高 岩 山
9. 23	滝山たんけんⅡ	滝山でアケビを探し食べる	〃	滝 山 丘 陵
10. 29	奥多摩たんけんⅠ 打合せ	奥多摩登山の準備	〃	公 民 館
11. 13	奥多摩たんけんⅠ	高岩山・鍋割山たんけん	〃	高 岩 山
11. 27	滝山たんけんⅢ	じねんしょ掘り	〃	滝 山 丘 陵
12. 18	滝山たんけんⅣ	じねんしょ掘りと笛作り	〃	〃
1. 28	奥多摩たんけんⅡ 打合せ	冬の奥多摩の諸注意	〃	公 民 館
2. 5	奥多摩たんけんⅡ	高水山登山 雪あそび	〃	高 水 山
3. 10	ファミリー・ハイキング打合せ	} 子どもたちによるハイキング企 画と下見調査（樺ノ折山）	〃	公 民 館 中 止
3. 18	ファミリー・ハイキング下見調査 ファミリー・ハイキングは中止		〃	

総括 地図と磁石が自由に使えるようになった参加者が増えた。

日曜日に出かけることが多いので、事前の日程作成が組みにくい。

子どもたちの中から、もっとサバイバル的なことをやりたいという意見が多く出るようになった。

夏休み自然教室

私たちが住む市内の自然を、子どもたちにもできる方法でより科学的に理解する機会として実施した。

期 間 昭和58年7月25日(月)～8月31日(木) 全17回

会 場 公民館・市内河原

参加者 26人 延230人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師	場 所
7. 25	オリエンテーション	この教室の内容説明	職 員	公 民 館
7. 29	植物調査 Ⅰ	南公園付近の植物分布を調べる	宮岡一雄氏	市内河原
8. 1	" Ⅱ	体育館 "	"	"
8. 3	昆虫調査 Ⅰ	南公園付近の昆虫分布を調べる	栗原 仁氏	"
8. 5	植物調査 Ⅲ	福生団地下付近の植物分布を調べる	宮岡一雄氏	"
8. 9	昆虫調査 Ⅱ	体育館付近の昆虫分布を調べる	栗原 仁氏	"
8. 13	水生昆虫調査	永田橋上流で水生昆虫分布を調べる	田中和明氏	"
8. 18	野鳥調査 Ⅰ	南公園付近の野鳥を調べる	岡田紀夫氏	"
8. 19	" Ⅱ	体育館 "	"	"
8. 20	" Ⅲ	福生団地下付近の野鳥を調べる	"	"
8. 22	昆虫調査 Ⅲ	" 付近の昆虫分布を調べる	栗原 仁氏	"
8. 23	} 24時間キャンプ	} 柳山公園で、市内の24時間の 移りかわりを調べる。	岡田紀夫氏	"
8. 24			宮岡一雄氏	"
8. 25	まとめⅠ	調査結果をグラフに表示する	職 員	公 民 館
8. 26	まとめⅡ	"	"	"
8. 27	まとめⅢ	"	"	"
8. 31	まとめⅣ	"	"	"

総 括 今年は梅雨に大雨が降ったり、調査期間中にも降ったので、一昨年と比較できないほど河川敷の地形が変化したところもあった。

調査のまとめに時間を多くかけた。その資料を中学生が学校の理科教諭に見せたら「ほめられた」とのことだった。

英会話でクッキー作り（子ども会リーダー研修会）

横田基地をかかえる当福生市では、比較的外人と接する機会が多い。そのことをプラスの方向で考え、どのような方法が良いのかを模策する機会として前・後期の2回実施した。

期 間 前期 昭和58年7月25日(日)～8月25日(木) 全10回

(1回は台風のため中止)

会 場 公民館調理室

参加者 15人 延78人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師	場 所
7. 25	オリエンテーション	この教室の説明、自己紹介	高橋登志江氏	公民館
7. 28	カップケーキの作成	ケーキの作成と英会話	Mrs ワシントン	〃
8. 1	シュウマイの作成	シュウマイの作成と英会話	Mrs プルトー	〃
8. 4	ブラウニーの作成	ブラウニーの作成と英会話	の3人で毎回	〃
8. 8	カッドンの作成	カッドンの作成と英会話	実施	〃
8. 11	スパゲティミートソース	スパゲティの作成と英会話		〃
8. 18	マカロニチーズ	マカロニチーズの作成と英会話		〃
8. 22	クッキーと和紙作り	クッキーと和紙作りと英会話		〃
8. 25	終了パーティー	ケーキを作り英会話		〃

期 間 後期 昭和59年3月26日(月)～3月31日(土) 全5回

会 場 公民館調理室

参加者 14人 延54人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師	場 所
3. 26	タコスの製作	タコスの製作と昼食を行う	高橋登志江氏	公民館
3. 28	カッドンの製作	カッドンの製作と昼食を行う	Mrs ワシントン	〃
3. 29	オートミールクッキー	オートミールクッキーの製作	Mrs プルトー	〃
3. 30	ピーナツバタークッキー	ピーナツバタークッキーの製作	の3人で毎回	〃
3. 31	レモンパイ、肉マン	レモンパイの製作と昼食	実施	〃

総括 前・後期を通して参加者は皆真剣だった。英会話能力と英語力のちがいがはっきりと理解できたようだ。

私たち日本人は料理に対してデリケートであるが、アメリカ人は大変雑であることに参加者一同が気がついた。

夏休みマンガ教室

子どもたちの手先がむしばまれていると言われ、また、創造力が貧しいと言われている今日、機会・場・先生の条件があれば回復できるのではないかと考え、機会を設定した。

期 間 昭和58年8月8日(月)～8月12日(金) 全4回

会 場 公民館集会室

参加者 17人 延人数 54人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師	場 所
8. 8	マンガについて	マンガのできるまでの説明、自己紹介	原嶋卓三氏	公民館
8. 10	マンガの描き方Ⅰ	具体的な表情・動きなどの説明	〃	〃
8. 11	〃 Ⅱ	〃	〃	〃
8. 12	〃 Ⅲ	マンガの利用法を身近なもので考える	〃	〃

総括 今年は先生の用意してくれた資料をもとにいろいろな方向に話しがはずんだ。マンガを人形劇・紙芝居などに利用する方法などを具体的に見て、参加者全員がおもしろがっていた。参加者の中には、マンガクラブに積極的に参加したいと言いつづける子どもがいた。

子どもサバイバル教室

異年齢の集団活動の中で、実習を通して工夫する心と、協調心を育む。

期 間 昭和58年6月29日(木)～7月29日(金) 全8回

会 場 松林会館および野外

参加者 30人 延240人

月 日	内 容	講 師	場 所
6. 29	オリエンテーション	担 当 職 員	松 林 分 館
7. 6	とうふづくり	清水信作氏	"
7. 10	"	"	"
7. 13	米炊きのいろいろ	担 当 職 員	"
7. 20	くん製づくり(塩づけ)	小林正成氏	"
7. 24	" (くん煙)	"	都 立 農 林
7. 28	キャンプ実習	担 当 職 員	奥 多 摩 町 営
7. 29			川 井 キャンプ 場

総 括 今年度は「衣食住」の「食」にテーマをしぼり実習を中心におこなった。

「食べる物を苦労してつくる」ということに子供達は興味をしめし、よりおいしく、より早くということにそれぞれ工夫をこらしていた。

夏休み工作教室・手づくりの楽器

既製・できあいの物質文明の中で、物を創り出すことのよろこびを忘れてしまった子供達に、身近な材料を利用して、創るよろこびが感じられる機会とした。

期 間 昭和58年8月8日(月)～8月11日(木) 全3回

会 場 松林分館

参加者 19人 延57人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
8. 8	手づくりの楽器	楽器のいろいろ、紙ぶえ	松 本 雅 隆 氏 (ロバの音楽座)
8. 10	"	竹ぶえ	
8. 11	"	竹だいこ	

総 括 身近にある紙・竹・ハリガネなどを使って作った楽器で、正確な音階をかなえられることに子供達はおどろいていたようだった。

親子工作教室・はめ絵パズル

紙と粘土という素材を使って、組みあわせとまとまりというパズリングの楽しみを体験するなかで、たくみな創造力を育む機会とした。

期 間 昭和59年3月26日(月)～3月31日(土) 全4回

会 場 松林分館

参加者 20人 延80人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
3. 26	はめ絵パズル	デザイン、型どり	木住野利明氏 (絵本作家)
3. 28	"	ブロックづくり	
3. 29	"	"	
3. 31	"	色つけ	

総 括 パズルを作るということは、高度な創造力を必要とするものであるが、子供達はだれひとりと講師のまねをする者ではなく、あらためて子供の持つ、自由でのびやかな創造力を感じさせられた。

子ども教室

年間通しての異年齢のあそび集団の形成と、仲間と一緒に何かをやりとげる力や手・足のたくみさを回復し、生き生きした子どもの発達を保障しようという目的で開催した。

期 間 昭和58年6月11日 昭和59年3月31日(土) 全32回

会 場 松林会姿、多摩川、草花丘陵

参加者 14人 延448人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師	場 所
5. 28	オリエンテーション	班分け、班長、記録の選出、ゲーム	担当職員	松林会館
6. 11	たのしくあそぼう	仲間づくりと集団であそぶことのた	担当職員	"
25	たのしくあそぼう	のしさを体験する。基本的な室内ゲ	担当職員	"
7. 9	たのしくあそぼう	ームを覚える。	担当職員	"
7. 23	外に出てあそぼう	おもいきり体を動かしてあそぶ、外	担当職員	"
8. 6	"	あそびを覚える。	"	"
13	キャンプを準備しよう	キャンプに向けて、うどんづくりの練習	"	"
20	松林ナイトキャンプ	1泊2日のキャンプ、キャンプワーク、	斉藤明郎氏	"
21	"	手打うどん、カレーライスづくり	神蔵 誠氏	"
9. 3	自動車お面づくり	創作の期間	担当職員	"
17		松林だれでもなんでも展に向けて、	担当職員	"

月 日	テ マ	内 容	講 師	場 所
9. 24	お面をつくろう	新聞紙を利用した、大型おめんを各人が作成、着色し、展示した。	担 当 職 員	松林会館
10. 1	お面をつくろう		担 当 職 員	〃
8	お面をつくろう		担 当 職 員	〃
15	お面をつくろう		担 当 職 員	〃
11. 5	たんけんに出よう	多摩川川原に出かけてたんけんする	担 当 職 員	多摩川原
12	〃	草花丘陵に出かけて、川原と丘陵を	斉藤明朗氏	草花丘陵
19	〃	2日にわたってたんけんする	斉藤明朗氏	〃
12. 3	自動車をつくる	自動車の設計図を書く	斉藤明朗氏	松林会館
17	たこづくり	たこをつくる	斉藤明朗氏	〃
24	〃	クリスマスのつどい	斉藤明朗氏	〃
1. 14	自動車をつくる	自動車の設計図を描く	斉藤明朗氏	〃
21	自動車をつくる	〃	斉藤明朗氏	〃
2. 4	多摩川川原で		斉藤明朗氏	多摩川原
18	自動車をつくろう	古バイク、古自転車の解体	斉藤明朗氏	松林会館
25	自動車をつくろう	古バイク、古自転車の解体	斉藤明朗氏	〃
3. 3	自動車をつくろう	自動車車台の工作	斉藤明朗氏	〃
10	自動車をつくろう	自動車車台の工作	斉藤明朗氏	〃
17	自動車をつくろう	自動車車輪のすえつけ	斉藤明朗氏	〃
24	自動車をつくろう	自動車完成、かに坂公園で試乗	斉藤明朗氏	かに坂公園
31	お菓子をつくろう	クッキー、コーヒーゼリーづくり	斉藤明朗氏	松林会館

総 括 手打うどんなどを、家で実際につくってみた1年生が出てきたりしている。忘れがちな子どもの生活体験を豊かに技として伝えていくことが大事な時代に入っている。子どもが、食物を作るということや、ものを自由につくったり、こわしたりする体験が、総合的な労働体験になっている。

おもしろ科学クラブ（青空教室）

仮説実験を中心とした、科学教室を開催した。子どもに科学のたのしさと、科学的思考を身につける。

期 間 昭和58年7月27日(水)～8月24日(水) 全5回

会 場 松林会館

参加者 18名 延90人

月日	テ - マ	内 容	講 師	会 場
7. 27	重さをくらべる	ものの重さとは何かを、実験を使って明らかにしていく	原 島 貞 夫 氏	松林会館
8. 3	重さをくらべる			"
10	表面張力を調べる	表面張力の現象をさまざまな実験を通して明らかにし、表面張力の原理を理解する	福生2中教諭	"
17	表面張力を調べる			"
24	食品てんか物	コーラー等清涼飲料水を使って実験	担 当 職 員	"

総 括 仮説実験になれていない子どもたちが多く、疑問点を出す子どもがいかに少なかった。

夏休みのためか、継続的に参加する子が少なく、実験が2日にわたるものは理解がむずかしかったようである。

わんぱく教室

集団で遊ぶことの楽しさ、自然と接することの楽しさ、物をつくることの楽しさ等を味わう機会として実施した。

期 間 昭和58年7月25日(月)～8月11日(木) 原則として午後2時～4時

全6回

会 場 白梅分館、公民館、野外

参加者 22人 延94人

月日	テ - マ	指 導 者	会 場
7. 25	ゲームで仲間をつくろう	担 当 職 員	白 梅 分 館
7. 29	手打ちうどんをつくろう	村野 栄子氏	公 民 館
8. 2	高尾山たんけん	上田千鶴子氏	八王子市高尾山
8. 4	竹トンボをつくろう	河久保金蔵氏	白 梅 分 館
8. 10	ディキャンプ打合せ	担 当 職 員	"
8. 11	ディキャンプ	"	青梅市風の子・太陽の子広場

総 括 この教室を通して、子どもたちの間に仲間意識が芽生えたが、6回では、それを深めることが出来ずに終わってしまい残念であった。

親と子のひろば

親子の心のふれあいを深める機会として実施した。

会 場 白梅分館

参加者 77人

テ ー マ	日	時	指 導 者	参加者
陶 芸 教 室	昭和58年8月12日(金)	午後2時～4時	箕田寅生氏	14人
	8月26日(金)	午前10時～午後4時	担 当 職 員	14人
藤 細 工 教 室	昭和58年8月29日(月)	午前10時～正午	山崎初江氏他	22人
あやとり教室	昭和59年3月10日(土)	午後2時～4時	神谷和男氏	27人

総 括 陶芸教室には、父親との参加が2組あった。子育てにおける父親の役割が問われている今日、父親が参加できるような教室を開くことが必要であろう。

子ども手芸教室

ポシェットの製作を通して子どもの創意工夫を促し、作る楽しさを知る機会として実施した。

期 間 昭和58年7月29日(金)～8月17日(水) 全6回

会 場 白梅分館

参加者 24人 延103人

月 日	テ ー マ	内 容	指 導
7. 29	はじめまして	自己紹介、班わけ、ゲーム	担 当 職 員
8. 3	布を染めよう	古い白布を染める	〃
8. 5	布で織ろう	糸かけ、布をさいて織る	〃
8. 10	〃	布をさいて織る	〃
8. 12	〃	〃 肩ひもをつくる	〃
8. 17	どんなものができたかな	しあげをする	〃

総 括 さいた布のあとしまつが低学年は上手にできなかった。

指先は高学年の方が器用であった。完成するまでは根気のいる作業なので、途中であきてしまう子どももいた。

(3) 青 年

青年学級「人形劇教室」

手作りの文化としての人形劇を通し、青年の仲間づくりの場として実施した。

期 間 昭和58年9月28日(水)～昭和59年2月29日(水) 全20回

会 場 公民館視聴覚室他

参加者 18人 延336人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
9. 28	オリエンテーション	開講にあたって、自己紹介等	大井数雄氏
10. 5	試 演	身近にあるもの(例えば、鉛筆やノート など)を動かし遊んでみる。	(人形劇団カラバス主宰)
10. 19	脚本を読む	脚本を読みながら人形劇のイメージをふくらませる。	"
10. 26	人形づくり	はりこ、布の2班に分かれて人形づくり にとりかかる。	"
11. 9	"	"	"
11. 16	" 人形を動かす	人形にふりをつけ動かしてみる。	"
11. 30	" "	"	"
12. 7	人形を動かす	"	"
12. 14	脚本を読む	「ホップ、ステップ、ジャンプくん」の	"
12. 21	"	脚本を読み、上演にむけて話し合う。 また、新たに人形づくりをすすめる。	"
1. 11	人形づくり 小道具づくり	脚本のキャラクターに合わせ人形づくり をすすめる。	"
1. 18	"	"	"
	"	"	"
1. 25	けいこ 1	人形の振り付けをする。脚本を読みこむ。	"
2. 1	" 2	"	"
2. 8	" 3	"	"
2. 15	" 4	"	"
2. 22	" 5	"	"
2. 25	会場設営・リハーサル	舞台づくり、背景セット他	"

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
2. 2 6	発 表 会	「ホップ・ステップ・ジャンプくん」 発表会・ビデオを見る。今後について話し合う。	大井数雄氏
2. 2 9	反 省 会		〃

総 括 教室が長期にわたったため、参加者に無理がかかったようだ。とくに幼稚園教諭、保育園保育が多く参加したが、仕事のためか、長つづきしなかった。

発表会を無理してでも実施したことが、参加者どうしの結びつきを深め、人形劇上演の厳しさ、楽しさを実感できたと思われる。

〈人形劇教室発表会「ホップ・ステップ・ジャンプくん」〉

日 時 昭和59年2月26日(日) 午後2時30分～3時25分

会 場 公民館展示室

観客数 約60人

総 括 当日はたいへん大雪の中にもかかわらず、多数の観客があり、手作りの人形劇文化の可能性をあらためて感じた。

会場がロビーにオープンであるため、良い雰囲気をつくりだしていた。しかし、他サークル、小ホール発表会の音がかなり気になった。

若い市民の講座「ギターコース」

青年の文化活動、仲間づくりの場として実施した。

期 間 昭和58年10月14日(金)～12月23日(金) 全10回

会 場 公民館視聴覚室

参加者 12人 延96人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
10. 14	オリエンテーション	自己紹介、楽器の説明等	高木 裕氏
10. 21	基礎練習 1	楽器の持ち方、右手の練習	〃
10. 28	〃 2	右手の練習、半音階(左手の練習)	〃
11. 11	〃 3	〃	〃
11. 18	〃 4	〃	〃
11. 25	〃 5	〃	〃
12. 2	〃 6	〃	〃

月 日	テ	ー	マ	内 容	講 師
1 2. 2.	小 曲 練 習	1		個人個人に課題曲を与え、練習	高 木 裕 氏
1 2. 9	基 礎 練 習	7		アルペジオ練習他	"
	小 曲 練 習	2		課題曲	
1 2. 1 6	基 礎 練 習	8		アルペジオ練習他	
	小 曲 練 習	3		課題曲	
1 2. 2 3	基 礎 練 習	9		アルペジオ練習他	"
	小 曲 練 習	4		課題曲	
	個 人 発 表 会			課題曲をそれぞれ演奏してみる	

総 括 10回のコースでは時間が足りないことを痛感した、とともに、講座以外
(例えば家)で毎日10分でも練習している人といない人とは上達にかなり差がでた。今後実施する場合考慮しなければならない。
参加者のレベルが多少違っていたが、お互い教えあい学びあい、練習できた。
講座終了後も集まって自主的に練習している。

若い市民の講座「影絵劇コース」

影絵劇を通して、青年の仲間づくりをすすめていくとともに、サークルの活発化をねらい実施した。(福生市青年団体連絡協議会との共催)

期 間 昭和58年9月17日(出)～11月13日(日) 全12回

会 場 公民館視聴覚室他

参加者 12名 延98人

月 日	テ	ー	マ	内 容	講 師
9. 1 7	オリエンテーション			自己紹介、講座の説明 他	南 辰 兵 氏
9. 2 5	人形、背景の製作	1		脚本を読み、人形、背景をつくる	"
1 0. 1	"	2		"	
1 0. 8	"	3		"	
1 0. 1 5	"	4		"	
	音づくり	1		ナレーション録音、BGM製作	
1 0. 2 2	人形、背景の製作	5		人形、背景の製作完了	
	音づくり	2		ナレーション、BGMの製作完了	

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
10. 23	けいこ 1		
10. 29	" 2		
10. 30	" 3		
11. 6	" 4		
11. 12	" 5、会場設営	文化祭のための仕込み、リハーサル	
11. 13	市民文化祭参加		

総 括 青連協との共催であったが、参加者が、講座終了後も継続して活動をするには
いたらなかった。

10代、20代の参加者が少なかったのは残念であり、今後とも考えていかな
ばならないと思う。

青年団体リーダー研修会「わがまちの青年活動を展望する」

地域の青年活動とくに公民館でのサークル活動がひろがりをもちえない今、青年活動のこ
れからを展望し、より良い、活発な活動のきっかけづくりとなればと実施した。

期 間 昭和59年3月12日(月)～3月20日(火) 全5回

会 場 公民館第1集会室、加美公会堂(19～20日)

参加者 6人 延20人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
3. 12	オリエンテーション	参加者個々の活動の現状を出しあい 相互交流をすすめる	
3. 14	公民館づくりと青年 の活動	公民館づくりの核となった青年の活 動を中心に、そこで話し合われた公 民館の理念や建設後のサークル活動 にもふれ、事例を学ぶ	村野雅義氏(元 利用者懇談会事 務局長)
3. 16	青年団と地域、サー クル活動	青年団解散にいたる過程でどのよう なことを模索し、話し合いがなされ たのか、地域で青年がいきいきと活 動することの可能性をさぐる	大野 聡氏(元 青年団長)

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
3. 1 9	他市の青年活動を知り、わがまちの青年活動を展望する	八王子青年サークル連絡会の状況を知り、交流する中から青年活動を展望する	小川俊一氏（八王子サークル連絡会広報担当）
～ 宿 泊 ～			
3. 2 0	”	福生市の現状を把握し、あらたな活動への可能性をさぐる	野沢久人氏（元・公民館長）

総 括 新たなサークル、メンバーの参加を期待したのだが、実現しなかった。サークル内での新旧交代もスムーズにできてないのが現状である。

企画が総花的になりがちであったため、突っ込んだ話し合いができなかった。

テーマがかたくなるしかつたのだろうか、参加者が少なかった。

成人式及び20歳のつどい

〈 成人式 〉

日 時 昭和59年1月15日 午前10時30分～11時30分

会 場 市民会館大ホール

主 催 福生市、福生市教育委員会（主管は社会教育課）

内 容 君が代吹奏、主催者祝辞、来賓祝辞 他

対 象 昭和38年4月2日から昭和39年4月1日までに出生した639人

参加者 400人

〈 20歳のつどい 〉

成人者みずからが、成人することの意味を考え、祝い、地域の人間関係などを再確認する機会として実施した。実施にあたっては、対象者に呼びかけ「20歳のつどい実行委員会」を結成し準備にあたった。

日 時 昭和59年1月15日 正午～午後2時30分

会 場 市民会館第4・5・6・7集会室

主 催 20歳のつどい実行委員会、福生市公民館

内 容 イ) 立食パーティー
ロ) カラオケ大会
ハ) ウルトラクイズふっさ版 他

参加者 286人

〈20歳のつどい実行委員会〉

20歳のつどいの企画・実施など、成人者みずからの手によってつくりあげること、そしてその中で仲間づくりをすすめ、新たな青年の集団を形成できればと実施した。

期 間 昭和58年12月15日(木)～59年1月15日 全9回

会 場 公民館集会室他

参加者 16人 延105人

月 日	テ ー マ	内 容
12. 15	オリエンテーション	成人式及び20歳のつどいについて・自己紹介 過去の8ミリ等を観賞し、イメージ形成の一助とする
12. 19	企 画 1	各自の20歳のつどいをどのようにしたいかをまとめる
12. 22	" 2	"
1. 5	" 3	企画案完成
1. 9	準 備 1	アトラクション出演者の決定、役割分担決定
1. 11	" 2	クイズなど中味の検討他
1. 12	" 3	食べ物、賞品等の買い出し等
1. 14	" 4	会場設営
1. 15	" 5	最終準備、本番

総 括 今年は参加者が例年になく多く、地域の青年の結びつきもまだまだあるように感じた。しかし、3中卒業生が一人も参加せず、また他市中学校卒業の一人が浮いてしまったようなところがあったのは残念だった。

(4) 婦 人

幼児教育学級

幼児がどのように成長・発達をとげていくかを学び、「たくましく、健康的に、自由に仲間の中で遊ぶ」という環境をどうとらえていくかを考える。

期 間 昭和58年5月12日～7月14日 (全10回)

会 場 公民館

参加者 13人×10回=130人

回	月 日	主 題	内 容	備 考
1	5月12日	(はじめに) オリエンテーション & たがいのよきつながりへ	・自己紹介 ・幼児室事業実施内容紹介 ・保護者の準備と役割	説明と話し合い
2	5月19日		親として、私達の学習について "育児と私"	紹介と話し合い
3	5月26日	幼児の成長と	子どもの世界の捉え方 "動作から子どもの心を捉える"	大堀容子氏 (幼児教育研究者)
4	6月 2日	発達を学ぶ	発達ということと親子の交信について	同 上
5	6月 9日	親として	子どもの基礎環境・家庭の教育 力・夫婦家庭の文化	志村 立氏 (学習活動経験者)
6	6月16日	"家庭形成"	私達の育児とこれからの家庭づくり	話し合い
7	6月23日	異年齢集団での発達	集団の場における発達とダイナ ミズム	坂上博子 (幼児室指導者)
8	6月30日	を学ぶ	異年齢集団での作用(人との係 わり・共感・共有意識)	高橋登美子 (幼児室指導者)
9	7月 7日	子どもの心をつかむ	子どもの動作・行動事例の研究	助言者 大堀容子氏
10	7月14日	ま と め	全過程のまとめと以後の自主活 動	話し合い

総 括 幼児前期の子どもの発達を、知識と実際の仲間集団の様子を折り込んで学ぶ機会とした。このことで、親が子どもの発達を見つめ、子どもの最も至近にある、母親・父親の在り方、そして夫婦による家庭づくりを見直す機会となった。

婦人のための市民講座(A) "子どもの成長を願って"

幼児後期から児童期にかけての子どもは、近隣のつながりの中で多彩な遊びを展開し始める。また、現代を生きる基礎となる知識や技術を身につける段階となる。こうしたとき、親として如何に子どもに係わり、社会に係わるかを、おとなとして、市民として考える機会とした。

期 間 昭和59年2月3日～2月24日 (全4回)

会 場 公民館

参加者 20人×4回=80人

回	月 日	内 容	講 師
1	2月 3日	子どもの日常体力づくりと私(おとなとして)の運動クラブづくり	折笠良文氏 (都社会教育主事)
2	2月10日	"遊びと集団"、活々した集団遊びと多彩な活動経験	酒匂一雄氏 (")

回	月 日	内 容	講 師
3	2月17日	子どもにとって、家庭と地域の関係での成長	大堀容子氏 (幼児教育研究者)
4	2月24日	子どもの成長をめぐる、地域での親・おとなのこれから	服部照親氏 (都社会教育主事)

総括 幼児期の子をもつ母親の参加が多かったため、子どもの行動半径・仲間関係の広がりにも備える学習の機会とし、地域への子どもをめぐる、おとなの係わりを実践例を折り込み研究し、今から親達・子ども達が一緒のおつき合いをすすめていくことについて話し合われた。

婦人のための市民講座(B) “女性のこれからの生活と老後にそなえて”

現代の、目まぐるしい社会変化の中であって、生活の場となる家庭や地域は、都市化・核家族化へと急速に進行してきた。こうした中で、子育て以後の婦人の自立的な生き方とゆたかな老後にそなえ、これからの新たな家庭創造と社会参加をめぐり、以下のように実施した。

期 間 昭和59年2月8日～2月29日 (全4回)

会 場 公民館

参加者 15人×4回=60人

回	月 日	内 容	講 師
1	2月 8日	“婦人のライフサイクルの変化” 高成長と家族の変化・自らのライフサイクル形成	倉橋良子氏 (老後問題研究)
2	2月15日	“家族” 子どもの育成の現状・核家族と主婦・老人と核家族 etc	〃
3	2月22日	“地域” かつての共同体のもつ生活と心、都市の老人の社会との関係 etc	〃
4	2月29日	“これからの社会参加の在り方” 自己の表現が社会に役立つ、老後の自立生活のできる地域	〃

総括 40、50代の婦人の参加の中で、人間の生死・生活の節目となる地域行事(喜び、悲しみを分かち、心を通じ合う)を見通すとともに、自らの老後にかかわり、これからボランティア活動等による地域への係わりについて話された。

母親研修会

育児期の母親にとって、都市化・核家族化は、孤立の状況を呈するものとなっている。そこで、育児に関する認識と、教育主体である親・おとなの在り方を研究するため、以下のよう

に実施した。

期 間 昭和58年5月23日～6月22日 (全2回)

会 場 公民館

参加者 20人×2回=40人

回	月 日	内 容	講 師
1	5月23日	“親子の作用” 親子の愛情関係と自立、発達(自我の芽ばえ)と親の判断力	大堀容子氏 (幼児教育研究者)
2	6月22日	生物としての人間の育児と現代社会の育児環境づくりについて	宮岡一雄氏 (明治大学教授)

総 括 子どもの成長に関する親の役割から、親自身が生活の主体として社会性を高めること。高度に発展した社会環境の中で、生物である人間が体験を通じて生活力を身につけることについて考える機会となった。

婦人グループ交流研究会

公民館における、婦人の学習・趣味・文化活動が、多彩におこなわれている中で、各々の生活に共通する課題についての学習の機会として、以下のように実施した。

実 施 昭和59年3月23日 (全1回)

会 場 公民館

参加者 15人×1回=15人

内 容 「これからの暮らしと、住まいについて」

講 師 群馬大学助教授 (住生活学) 林 和子氏

総 括 日常生活で人間的な充実感をもって生きるためには、生活する場の空間の在り方や条件に大きく影響される。このことから、人間は環境に規定されるとともに、環境をつくり出す存在であり、この点で、家庭・地域、そして生きる手ごたえについて考える機会となった。

日米婦人文化交流事業(共催)

アメリカ婦人との交流をもとに、日米の婦人の生活、家庭や地域での暮らし方、生活様式、

ほか、伝統文化等の交流を実施し、相互の親善をはかる。また、そのための英会話習得の機会として、以下のとおり実施した。

期 間 昭和58年9月1日～59年5月31日 — アメリカの学期 — (全34回)

リーダー会 (全9回)

会 場 公民館、基地内クラブハウス、見学活動各所

参加者 (15人×6クラス×34回)+(12人×9回)=3,168人

1	レギュラー・クラス 自作資料をもとに、日本の年中行事やアメリカの生活様式など、英会話学習を通して相互交流の機会とし、また、各クラス毎の自主企画交流活動を多彩に実施する。(ボランティアティーチャー 6クラス×2人=12人)			
2.	全体交流事業 <table border="1"> <tr> <td> (1) 日本側交流事業 ① ビール工場見学 2月16日(府中) ② 郷土文化財紹介“祭囃子演示紹介” 演示 牛二囃子連 3月22日(市民会館小ホールにて実施) 協力 市郷土資料室 ③ 製茶園及びお花畑見学 5月10日(瑞穂) </td> <td> (2) アメリカ側交流事業 ① ハロインパーティー 10月27日 (基地内) ② ターキーテイスト 11月24日 (公民館) ③ クリスマス・ティーパーティー 12月15日(公民館) ④ 親善交流事業年度の修了及び謝恩パーティー 5月31日(基地内) </td> </tr> </table>		(1) 日本側交流事業 ① ビール工場見学 2月16日(府中) ② 郷土文化財紹介“祭囃子演示紹介” 演示 牛二囃子連 3月22日(市民会館小ホールにて実施) 協力 市郷土資料室 ③ 製茶園及びお花畑見学 5月10日(瑞穂)	(2) アメリカ側交流事業 ① ハロインパーティー 10月27日 (基地内) ② ターキーテイスト 11月24日 (公民館) ③ クリスマス・ティーパーティー 12月15日(公民館) ④ 親善交流事業年度の修了及び謝恩パーティー 5月31日(基地内)
(1) 日本側交流事業 ① ビール工場見学 2月16日(府中) ② 郷土文化財紹介“祭囃子演示紹介” 演示 牛二囃子連 3月22日(市民会館小ホールにて実施) 協力 市郷土資料室 ③ 製茶園及びお花畑見学 5月10日(瑞穂)	(2) アメリカ側交流事業 ① ハロインパーティー 10月27日 (基地内) ② ターキーテイスト 11月24日 (公民館) ③ クリスマス・ティーパーティー 12月15日(公民館) ④ 親善交流事業年度の修了及び謝恩パーティー 5月31日(基地内)			
3.	クラスリーダー会 レギュラークラス運営及び全体交流事業の企画・実施等、各クラス代表2名、チエアマ2人、公民館職員の構成で月例実施			

なお、昭和59年度からは、自主的な日米親善交流活動として実施するようすすめる。

総 括 相互交流の一方の主体として、日本側交流事業実施は4年目。今年は、日本のお祭りほか、日本文化・産業等の一端を体で感じとる機会を設けた。また、アメリカ婦人の“社会や生活のうえで、自分のできることは、他者と自身のために行う”という生活意識から学ぶことが多かった。

婦人文章教室「私の日々を書く」

毎日の生活に押し流されている婦人が、書くことによって、自分と自分の生活をみつめなおし、自分の考え方、価値観を文章で書けるようにする。

期 間 昭和58年9月5日(月)～10月17日(月) 全6回

会 場 松林分館

参加者 11人 延66人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
9. 5	文章を書くには	婦人の日々について語る	桑名靖治氏 (都立三鷹高校教諭)
9. 12	文章をどう書くか	各人の作品にふれ、内容を深める	
9. 19	〃		
9. 26	〃		
10. 3	文章をどう深めるか		
10. 17	〃	文集を読みながらのまとめ	

総 括 婦人の毎日の平凡な生活、また婦人として一生のうちにかわる事柄にテーマを置いて書いていった。10代から70代までの女性が対等の立場で、同一の問題について卒直に意見を交換できる場となりえた。文集「こすもす」を発行。

婦人学級「女をめぐる法(法女性学)」

婦人が、自らのおかれている状況、かかえている問題等を整理し、生き生きとした女性の生き方をみつける機会とした。

期 間 昭和59年1月27日(金)～3月2日(金) 全6回

会 場 松林分館

参加者 10人 延60人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
1. 27	男女平等とは	男女平等の論理、法と男女平等	金城清子氏 (東京家政大教授)
2. 3	家族と男女平等	家族における女性の法的地位	
2. 10	教育と男女平等	男女平等教育の現状	
2. 17	雇用と男女平等	雇用平等法	
2. 24	社会保障と男女平等	老齢年金制度における性差別	
3. 2	国際社会と男女平等	婦人差別撤廃条約にみる男女平等	

総括 まったく新しい学問の分野である法女性学を取りあげ、現代の法体系の中で女性はどう扱われているかを体験をまじえて語りあった。

家庭教育学級

乳幼児の成長と発達についての理解と、その子育てを通して若い母親が自分自身の問題を考えることを目的とした。

期 間 昭和58年5月14日(土)～昭和58年10月1日(土) 全15回

会 場 松林会館

参加者 16人 延240人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
5. 14	オリエンテーション	自己紹介、公民館とは	担 当 職 員
21	学習課題を明らかにしよう。	子育ての中で悩んだり、考えたり、思っていることを整理していく。K 丁法による。第1回レポート、私の子育て	〃
28			〃
6. 4			〃
6. 11	プログラムづくり	前回まで話しあったことをもとに、プログラムを作成する。	〃
18	〃		〃
25	私の子育て	第1回レポートの発表と意見交換	〃
7. 2	幼児の世界	子どもにとって幼児期とはどんな時代なのか	細 谷 勇 太 郎 (コロリン村園長)
9	食を考える	子どもにとって食べることは大事な意味を持っています。子どもの成長のためにあらためて食を考えます	レポーター 大石文子さん 鵜崎絢子さん
13	絵本の世界と幼児		福 地 ト シ 氏 井ノ頭保育園々長
7. 23	幼児とおもちゃ	子どもにとっておもちゃはどんな働きをするのか	担 当 職 員
9. 3	乳幼児期の成長発達	1年間で赤ちゃんはすばらしい発達をとげていきます。歩くことを、言葉を、感覚を、考えることを身につけていきます。その乳児から幼児への発達を考えます。	中 村 ち よ 青梅第2保育園 園長
9. 10	〃		
17	婦人の現状	子育て期の母親がかかえているさまざま	担 当 職 員
10. 1	婦人の現状	な問題を婦人問題として考えます。	桜 井 陽 子 フリーライター

総括 子育て後の生き方、あるいは、あらためて自らの生活を見直す機会になった。

2回にわたるレポート提出は参加者にはきびしい課題であったが、生活を見つめ直す、自分のおかれている状況を客観的にみする一歩になったようである。

婦人学級(C) 「女性史、同時代を生きる」

自分史を書く作業を通し、(1)戦後民主主義の自己点検し、(2)女性として、母として、さまざまな矛盾をかかえた一個人として、婦人解放への道をさぐる婦人問題としての歴史を学び、(3)歴史学の研究方法を身につけるという3つの目標を設定した。

期 間 昭和59年5月18日(水)～昭和60年3月28日(水) 全33回

会 場 松林会館

参加者 8人 延264人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
5. 18	自分史年表作成	自分史の年表作成とそれをもとに、自	担 当 職 員
1. 18	自分史を語る	自分史を語る。	"
1. 25	何故現代を学ぶのか	自分史を語ることの意味と共有するものは	担 当 職 員
2. 5	戦後史を学ぶ	戦後の日本の歩みを戦後民主主義を点検する視点から学ぶ	川村善二郎 (東京経済大学) 助教授
2. 13	戦後史を学ぶ		
2. 20	戦後史を学ぶ		
2. 29	同時代に生きて	戦後女性がさまざまな分野で活動しているが、母親として一人の人間としてどういうあゆみをしてきたか。ライフヒストリーを聞く。	鳥海志げ子氏 (どんぐりの会)
3. 7			清水文江氏 (全国PTA問研)
3. 14			福長笑子氏 (三高連)
3. 25	同時代に生きるⅡ	若い母親たちに伝えたいこと、平和、自立、仲間づくりをテーマにパネル討論をしよう。	鳥海志げ子氏 清水文江氏 福長笑子氏

総括 自分史をテーマに3年計画の事業であるが、自分史を書くこと、語ることを通して、何を共有と財産としていくのか、共有する体験をどう思想化していくのかは、まだ模索中である。が、自分史を書き、語り、討論する過程で、確実に自分の人生をみつめ直し生き方を点検する中で、身近なところから婦人問題を問い直す機会になっている。

婦人学級「健康に生きるために」

健康に生きるために、どのようなことに心掛けたらよいのかを学ぶ機会として実施した。

期 間 昭和58年10月7日(金)～12月16日(金) 午前10時～正午(4回目のみ午後2時～4時) 全10回

会 場 白梅分館

参加者 21人 延140人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
10. 7	オリエンテーション	自己紹介、映画「すばらしい明日のために」鑑賞	担 当 職 員
10. 14	老人保健制度について	老人保健制度とはどういうものなのか。 また、それともなう福生市の保健活動はどうなっているのかを学ぶ。	阿 部 セ ッ 氏 (福生市健康センター)
10. 21	薬の副作用	薬が身体に与える悪影響について学ぶ。	久 保 山 昇 氏 (日本大学薬理学教室)
10. 28	合成洗剤の安全性	石けんと合成洗剤はどこが違うのか。 また、合成洗剤は身体にどのような影響を与えるのかを学ぶ。	小 林 勇 氏 (川崎市衛生研究所)
11. 11	乳ガンを自分で見分ける	乳ガンの自己検診法を学ぶ。	伊 藤 民 子 氏 (福生保健所)
11. 18	食品添加物の安全性	食品添加物とは何か。また、安全性にどのような問題点があるのかを学ぶ。	能 勢 征 子 氏 (都立立川短大)
11. 25	更年期を健康に過ごすために	更年期障害とはどういうものなのか。 また、更年期を健康に過ごすためには、どのようなことに心掛けたらよいのかを学ぶ。	鎌 奥 サ ダ 子 氏 (福生保健所)
12. 2	成人病予防と食事	高血圧、動脈硬化などの成人病にならないためには、どのような食生活を送ったらよいかを学ぶ。	中 川 光 子 氏 (福生保健所)
12. 9	身体を動かすことと健康	手軽にできる軽体操の実技を学ぶ。	吉 野 チ ェ 氏 (福生市体育指導委員)
12. 16	ま と め		担 当 職 員

総 括 参加者にとって、家族と共に健康について話し合い、個人個人が自分の身体のことを考えるきっかけとなったようである。

女性講座「女性史入門」

婦人の問題を歴史の流れの中でとらえ、その問題解決と、これからの女性の生き方が展望できることをねらいとして実施した。

期 間 昭和58年10月17日(月)～昭和59年3月30日(金) 全19回

会 場 白梅分館及び野外

参加者 20人 延254人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
10. 17	はじめに	女性史を学ぶにあたって	折井美耶子氏
10. 24	原始時代から古代国家の成立まで	ひみこから古事記・万葉の時代	(女性史研究者)
10. 31	古代の女性	源氏物語、今昔物語の時代	"
11. 7	中世の女性	政子から淀君までの時代	"
11. 21	近世の女性	近松の時代、女大学の時代	"
11. 28	明治維新	女性にとっての明治維新とは	"
12. 5	憲法、民法の制定	家族制度の中の女性	"
12. 12	資本主義の成立	富国強兵と女性	"
1. 9	大正デモクラシー	大正デモクラシーと青鞜運動	"
1. 23	新しい女たちの運動	婦人参政権と女性	"
1. 30	昭和恐慌	昭和恐慌下の女性たち	"
2. 6	レポート発表	「戦前の農村婦人」 「私の戦争体験」	
2. 13	ファシズムの時代	戦時下の女性たち	折井美耶子氏
2. 20	レポート発表	「五日市憲法」「片倉製糸」	
2. 27	戦後民主主義	戦後民主主義と女性	折井美耶子氏
3. 5	高度経済成長	草の根の婦人運動	"
3. 19	現代の女性	国際婦人年がもたらしたもの	"
3. 26	おわりに	これからの女性の生き方	"
3. 30	消えゆく絹の道を歩く	八王子から町田の絹の道を歩く	新井勝紘氏 (福生市文化財保護審議会委員)

総 括 レポート発表をするために参加者が勉強したことが、いちばん身についたようである。講座以外の時間にグループ学習をしていた。講座の記録をまとめとして作成した。女性の生き方については深く話しあえなかった。

婦 人 学 級

若い母親のもつ問題を共に考えあい、女性の生き方を考える場として実施した。

期 間 昭和５８年５月１１日(水)～９月２８日(水) 全１５回

会 場 白梅分館

参加者 １４人 延１８８人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
5. 11	はじめに	自己紹介、幼児室について	担 当 職 員
5. 18	いま考えていること	作文発表	〃
5. 25	〃	〃	〃
6. 1	〃	〃	〃
6. 8	女性の生き方	どんな生き方をしたいか	〃
6. 15	女性と仕事	子どもをあずけて働くということは	〃
6. 22	女の子はつくられる	女の子の育て方としつけについて	〃
6. 29	共働きと育児	共働きと子育て	〃
7. 6	女性と仕事	女性が働くということは	〃
7. 13	子育て後の人生	子育て後の人生をどうするか	〃
7. 20	これまでのまとめ	これまで出てきた問題の整理	〃
9. 7	集団の中で子供はどのように育っていくか。	子どもの集団がどのようにまとまっていたか。どのように子供が成長したか。	高 橋 登 美 子 氏 (幼児室指導者)
9. 14	主婦の再就職	女性のライフサイクルの変化 主婦の再就職の実態	桜 井 陽 子 氏 (フリーライター)
9. 21	これまでのまとめとこれから	これからの活動について	
9. 28	女性が働くとき	主婦の再就職の問題と再就職活動	桜 井 陽 子 氏

総 括 話し合い学習を意図していたが、問題の整理と展開が非常に難しかった。

課題図書をもう少ししばってもよかったように思う。

(5) 成人・一般

市民文化教室

1. 主 催 福生市公民館・福生市文化連盟
2. 目 的 多くの市民に趣味や実技、教養に関する初歩的学習の機会を提供することによって、市民の文化諸活動への参加を促し、市民文化活動の拡大に役立てる。（生活への環元・グループへの参加・新しいグループの創造）
 - (1) 公民館 連盟の力を伸ばすとともに、市民の学習の場を拡大していく。
 - (2) 文化連盟 連盟の持つ力を、市民に提供することによって、市民文化形成のリーダーの役割を果たすと同時に、組織の拡大（参加者や活動面）に役立てる。

昭和58年度 市民文化教室実施状況

文化連盟共催（11）

コ ー ス	開 講 期 間	内 容	指 導 者	参 加 員 人
編物・手芸	6月23日(木)から 全10回	サマーセーター、ベスト セカンドバッグ	堂田きよ子氏	30人
日 本 人 形	7月 6日(木)から 〃	木目込み人形 ひな人形	酒井 虹農氏	11人
書 道	7月 8日(金)から 〃	初心者むけの漢字、かな	岡部 朱溪氏	24人
茶 道	9月 2日(金)から 〃	裏千家流	山田 宗恵氏	18人
将 棋	7月17日(日)から 〃	駒のうごかし方	羽島 建夫氏	7人
俳 句	7月 4日(月)から 〃	現代俳句のやさしい鑑賞と作り方	来住野臥久氏	19人
民 踊	7月 2日(火)から 〃	民謡踊り	花柳千衛里氏	24人
社交ダンス	5月18日(木)から 〃	基本ステップ	長島 正穂氏	49人
尺 八	7月 7日(木)から 〃	都山流尺八の初歩的な吹奏習得	城戸 皓山氏	9人
民 謡	8月 8日(月)から 〃	初歩的な発声	藤本秀静輔氏	21人
詩 吟	7月 4日(月)から 〃	基本的な大意、発声、吟じ方を習得する	井上 吼征氏	6人

公民館主管(7)

コース	開 講 期 間	内 容	指 導 者	参 加 員
藤 細 工	6月 1日(水)から 全 7 回	基本的な藤細工技術の修得	兵 頭 利 博 氏	17人
陶 芸	9月 2日(金)から 全10回	土ねりから茶わん作りまで	柴 田 繁 氏	15人
木 彫	10月24日(月)から 全 7 回	デュイ	成 川 治 氏	16人
銅 工 芸	2月27日(月)から 全10回	カッパー・クラフト	岩 元 美 紀 氏	10人
七 宝 焼	3月 2日(金)から 全 5 回	七宝焼	大 国 広 志 氏	15人
ビデオ映画	9月 1日(木)から 全14回	ビデオの基礎とビデオ映画制作	佐々木 堅次氏	12人
ホ ビ ー	3月 1日(木)から 全 5 回	グリーティング・カードづくり	榎本まさひこ氏	11人

日曜市民大学講座(教育)“生きることと学ぶこと”

現代は、日常生活で学ぶ必要と機会が広がりをもち、また、趣味・文化活動への関心が高まりをみせている時代。そこで、あらためて「生活の中で学ぶこと」そして「地域で人と人との育くみ合うつながり」にむけて、市民の学習・文化・教育の場となる社会教育・公民館について考える。

期 間 昭和59年3月4日～3月25日 (全4回)

会 場 公民館

参加者 15人×4回=60人

回	月 日	内 容	講 師 等
1	3月 4日	・最も弱い生物体としての人間が、高度な動きをもつ生物体となるメカニズム。 ・市民の学習と公民館	宮 岡 一 雄 氏 (明治大学教授)
2	3月11日	「社会教育とは、みんなでつくるまちと公民館」 ・社会教育の理論と実際。学習方法。 ・都市公民館の現状と役割	小 林 文 人 氏 (学芸大学教授)
3	3月18日	・公民館で私達の学習・文化活動のこれから。 ・出会い、ふれ合う豊かさや場について	参加者話し合い。
4	3月25日	・都市的地域での市民生活の現状と、学習による生活づくり・まちづくりの事例から	岡 本 包 治 氏 (立教大学教授)

総 括 公民館で集団活動をおこなう方々にとって、社会教育・公民館を知る基本講座として実施。今年は、人格的向上と行動力をもった人間形成から、そうした場となる公民館活動事例の研究と地域での青少年育成と結びついたおとなの教育行為について考える機会となった。

市民大学講座「福生の自然の様子と私たちの生活」

市内及び市内を流れる多摩川を中心に、私たちの生活と自然がどのように関連しているのかを知る機会として実施した。

期 間 昭和58年11月9日(水)～12月14日(水) 全6回

会 場 公民館集会室

参加者 19人 延人数 74人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
11. 9	飲料水の誕生	“水”を生産する自然を考える	宮岡一雄氏
11. 16	水道水は何故飲めるのか	水が飲めるようになるまで	田中和明氏
11. 25	都市の緑の意味	都市生活の中で、緑を考える	本谷 勲氏
11. 30	緑被率の意味するもの	福生の緑の変遷を知る	宮岡一雄氏
12. 7	多摩川の水源から河口まで	子どもたちによる走破記録	大和一紘氏
12. 14	福生の多摩川の様子	市内の生物の样子の報告	栗原 仁氏

総 括 大人を中心に話しを進めているが、中・高校生の参加も目立った。今回は、市内の緑の変遷が理解できたように思う。

市民大学講座「演劇」

演劇の基礎から市民会館小ホールでの上演まで実施した。

期 間 昭和58年5月12日(水)～昭和58年12月3日(水) 全18回

会 場 公民館および市民会館小ホール

参加者 20人 延306人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
5. 12	交 流	自己紹介・演劇概論	福島靖夫氏 (劇団ひまわり俳優)
5. 19	演劇概論	講師による演劇概論	
5. 26	体操・発声練習	基本となる体操・発声練習	

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
6. 2	体操・朗読実習	基本となる発声訓練と朗読実習	
7. 7	体操・演技実習	基本となる発声訓練と演技実習	
7. 14	〃	〃	
7. 21	〃	〃	
9. 8	演 技 実 習	上演に向けての立稽古	
9. 22	〃	〃	
9. 29	〃	〃	
10. 6	〃	〃	
10. 13	〃	〃	
10. 20	〃	〃	
10. 27	〃	〃	
11. 10	〃	〃	
11. 17	〃	〃	
12. 1	〃	〃	
12. 3	上 演	小ホールでの上演	

総 括 小ホールでの上演に約180名の観客が集まった。講師と参加者の努力と協力により、無事に上演できるまでに至った。

市民大学講座・法律「核家族と法」

現在の基本的家族形態である核家族をとりあげ、法的にその沿革をさぐる機会とした。

期 間 昭和58年9月29日(木)～10月26日(木) 全5回

会 場 松林分館

参加者 15人 延75人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
9. 29	核 家 族 と 法	家族観の変遷	二 宮 充 子 氏 (弁 護 士 明 治 大 講 師)
10. 6	〃	現行家族法の概要	
10. 13	〃	夫婦法と両性の平等	
10. 20	〃	親子法と子の福祉	
10. 26	〃	核家族の法	

総 括 逐条的解釈の外に法の精神の理解という部分に力を入れて講座を進めた。

市民大学講座「万葉を読む」

日本文学の古典・万葉集を系統的に読みながら、奈良・平安時代の人々の生活や考え方を
知る。

期 間 昭和59年10月15日(土)～昭和59年11月26日(土) 全6回

会 場 松林会館

参加者 13人 延78人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
10. 15	オリエンテーション	自己紹介、万葉について	担 当 職 員
10. 29	万葉の女流歌人 I	万葉集4000余種の中に、女性に	高 野 正 美 氏 (都立短大助教授)
11. 5	万葉の女流歌人	よって詠われた作品を中心に	
11. 12	人麿呂と周辺	さまざまに解釈されている歌人人麿	"
11. 19		呂の作品を通して、生涯を考える	"
11. 26	山上憶良	憶良の生涯を考える	"

市民大学講座「郷土史講座」

市民が自らの力で地域の歴史を発掘し、自らの視点で歴史を科学的にとらえることの
できる歴史学研究の方法を身につけることを目的とした。

期 間 昭和59年1月29日(日)～昭和59年3月25日(日) 全7回

会 場 松林会館

参加者 8人 延48人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
1. 29	オリエンテーション	自己紹介、講座について	担 当 職 員
2. 5	多摩の近代	五日市憲法の背景 1	石 井 道 朗 氏 (五日市郷土館々長)
2. 18	歴史学とは何か	歴史学という学問はどういうものか	伊 藤 好 一 氏 (明大講師)
2. 26	論文発表コメント	研究論文の内容説明	担 当 職 員
3. 4	多摩の近代	五日市憲法とその周辺	新 井 紘 一 氏 (文化財審議会委員)
3. 11	幕末における農村の変化	幕末における農村分解とその過程	伊 藤 好 一 氏
3. 18	幕末における農村の変化	幕末における農村分解とその過程	伊 藤 好 一 氏

市民大学講座「少年非行と家庭」

家庭の問題が増えているなかで、少年非行と家族のかかわりについて考える機会として実施した。

期 間 昭和59年2月29日(木)～3月28日(木) 全4回

会 場 白梅分館

参加者 16人 延34人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
2. 29	福生の少年非行は	福生の少年非行の現状と問題点	飛 田 登 氏 (福 生 警 察 署)
3. 7	少年非行はいま	少年非行はいまどうなっているか	沖 正 博 氏 (立川児童相談所)
3. 21	家裁の子どもたち	家裁からみた少年非行	内 藤 一 郎 氏 (東京家裁八王子支部)
3. 28	少年非行と家族	少年非行と家族の関係	〃

総 括 雪の日に重なったりしたため、欠席が多かった。現状の問題をどう解決するか
が親にとっての課題である。他の機関と連携をとって実施する方が効果的であ
った。

自 然 観 察 会

市内の自然の様子を初めて参加する人にもわかりやすく理解できるよう設定した。

期 間 昭和58年5月22日(日)～昭和59年3月11日(日) 全9回

会 場 市内公園・河原

参加者 9回延人数 273人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師	場 所
5. 22	水生昆虫観察会	水生昆虫を観察し、水質との関係を知る	田中和明	河 原
6. 5	植物観察会	初夏の植物を観察し、河原と植物の関係	宮岡一雄氏	〃
9. 25	〃	秋の植物を観察し、河原と植物の関係	宮岡一雄氏	〃
12. 4	野鳥観察会	初冬の渡り鳥を中心に観察する	栗原 仁氏	〃
2. 12	〃	水面に浮かぶカモ類を中心に観察する	} 岡田紀夫氏 栗原 仁氏 他	〃
2. 19	〃	林の鳥と水辺の鳥の比較		〃

月 日	テ ー マ	内 容	講 師	場 所
2. 26	野鳥観察会	カワセミとイタチを中心に観察	岡田紀夫氏 栗原 仁氏 他	河 原
3. 4	〃	草はらの冬鳥を中心に観察する		〃
2. 11	〃	滝山丘陵の野鳥と植物を観察する		〃

総 括 今年度の冬鳥観察会はたいへん寒く、雪のために充分観察できない日もあった。

冬鳥の出現に大きな変化はなかったが、量的には若干少くなっているようだ。

参加者の中に資料を作る人が増え、公民館としても援助を続けたい。

教 育 講 座

教育の問題が社会問題になってから10数年たっている。今日の教育のかかえる問題を巾
広くとらえ直し、子どもが豊かに育つ条件を考える。

期 間 準備会 昭和59年5月26日から9月8日まで、全10回

本講座 昭和59年9月29日～昭和59年12月15日 全10回

会 場 松林会館

参加者 準備会 8人 延80人 本講座 18人 延198人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
9. 29	オリエンテーション	自己紹介、講座説明	担 当 職 員
10. 13	教育ってなんだろう	教育の問題を整理しながら、子ども にとって教育とは何かを考える。 レポート提出	担 当 職 員
10. 20	〃		
10. 27	義務教育の歴史	学校教育制度が明治以後今日までど んな変化をしてきたのかを考える。	関 根 庄 一 氏 (総合教育研究所)
11. 10	義務教育の歴史		
11. 19	子どもの現状	小学生・中学生がいまどんな生活を	田 村 光 男 氏 (国立2中)
11. 26	子どもの現状	学校ですごしているのか。	小 町 寛 氏
12. 1	P T Aの意味は	教育の現状を親の立場から少しでも 豊かにするため、P T Aの役割を学ぶ。	清 水 文 江 氏
12. 8	P T Aの意味は		(全 P 協)
12. 15	講座のまとめ	講座のまとめ	担 当 職 員

総 括 教育のさまざまな問題を、具体的状況の中で考えあう場となったが、討論がき
びしかったという意見が何人かのお母さんたちの感想としてあった。いい人の
お話を聞きたいという学習者の受身的学習から、討論が多かったので、学習者
の主体的にかかわりがもてた。レポート提出が重荷になって欠席した人が出た。

教育講座「中学生」

非行、校内暴力、家庭内暴力といった今日の中学生をめぐる問題状況は深刻化している。また、こういう顕著な問題行動ばかりでなく、「中学生になったら何も話さなくなった」「何かと親に反発する」といったように、第二反抗期と呼ばれるこの時期の子ども扱いについて、多くの親は悩みを持っている。親にとって悩み多い中学生とは、どんな年代なのかを明らかにしながら、親としてどのようにかかわっていったらよいのかを学ぶ機会として実施した。

期 間 昭和58年6月17日(木)～7月8日(金) 午後7時30分～9時30分

全4回

会 場 白梅分館

参加者 52人 延122人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
6. 17	いま中学生は	今日の中学生の生活や意識を明らかにする。	山 田 暁 生 氏 (中学校教諭)
6. 23	中学生の恋愛と性	今日の中学生の男女交際や性に対する意識を明らかにし、親として、それに対応していったらよいかを考える。	山 本 直 英 氏 (吉祥女子高校教頭)
6. 30	荒れる中学生	今日の少年非行の実態を明らかにし、非行をのりこえる手だてを考える。	浅 川 道 雄 氏 (東京家庭裁判所)
7. 8	親の役割	中学生の親として、いま子どもにどのように対応していったらよいかを考える。	関 根 庄 一 氏 (総合教育研究所)

総 括 社会的に大きな問題となっている時に実施したので、市民の関心も高く、参加者が多かった。

視聴覚リーダー研修会「16ミリ発声映写機操作講習会」

地域の視聴覚リーダーを養成すること、16ミリ発声映写機の操作講習を実施した。

期 間 昭和58年6月5日(日)～6月10日(金) 全5回

会 場 公民館視聴覚室他

参加者 14人 延70人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
6. 5	オリエンテーション 講 義	視聴覚教育について。16ミリ発声映写機の機構と操作について。フィルムについて。フィルム、映写機等の貸し出しについて。	佐藤勝貫氏 上島 茂氏
6. 7	実 技 第1日	16ミリ発声映写機の操作。各班3～4人	
6. 8	" 第2日	にわかれて、マニュアル4機種、オート1	
6. 9	" 第3日	機種の操作実習。	
6. 10	" 第4日 個別操作、修了式	各自、ひとりで確実に映写できるように。 修了証の発行。	

レクリエーションリーダー養成講座

日常生活の中でレクリエーションの果す役割は、年々大きくなっているように写る。しかし、現実的にはそれを指導できる身近な大人が少い。今回は初めてでもあるので、現在いろいろな団体の役員の人の呼びかけて実施した。

期 間 昭和58年5月30日(月)～7月18日(月) 全8回

会 場 公民館集会室

参加名 34人 延人数171人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
5. 30	オリエンテーション	仲間作りとゲーム、自己紹介ゲーム	二本松肇氏
6. 6	仲間作りゲーム	身体と心をふれあうゲーム	"
6. 13	講義と実技	レクリエーションとは何か、レクダンス	"
6. 20	心はずむおどり	レクダンス、フォークダンス	"
6. 27	心つなぐうたごえ	身体をうごかしながら歌をうたう	"
7. 4	講義と実技	リーダーの役割、心つなぐ歌ごえ	"
7. 11	つどいを楽しく	レク活動を生かしてパーティーを	"
7. 18	たびだちのつどい	キャンドルサービスでパーティー	"

総 括 初めての試みとしては多数の人が参加してくれた。レクリエーションが生活の中に意味する大きさが認識された。

子ども会役員研修会

毎年交替する子供会役員のうち、時に新役員を対象に少しでも子ども会本来の役割を理解してもらう機会として実施している。

期 間 昭和59年3月2日(金)～9日(金) 全3回

会 場 公民館集会室

参加者 7人 延人数16人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
3. 2	子ども会役員の役割	基礎的な役割と具体的な活動方法	木 全 力 夫 氏
3. 9	子ども会を支える大人	子どもの生活範囲と地域の大人	宮 岡 一 雄 氏
3. 16	具体的な活動事例	マンガクラブの活動報告	原 嶋 卓 三 氏

総 括 今年は参加者の中から少し早すぎるのではないか、という意見が多く出た。来
来は4月になってから始めたいと思う。

講座、子どもの生活と文化(子供会指導者研修会)

地域で子ども会活動を行っている父母のために、子どもの生活や文化状況についての基礎
的理解、子どもの自治的活動と大人の役割の理解を目的とした。

期 間 昭和59年1月28日(出)～3月8日(休) 全5回

会 場 松林会館

参加者 14人 延70人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
1. 28	オリエンテーション	いま、地域の子どもはどうなっているか	担 当 職 員
2. 4	子どもの現状	地域の子どもの生活はいまどうなっているか	斉 藤 次 郎 氏 (評 論 家)
2. 18	子どもの自治を育てる 集団づくり	子どもの自治的能力とは何か また、その力を育てる集団づくりの とりくみは	岩 橋 能 二 氏 (少年少女センター)
2. 25	子どもの文化の変化	戦後の子ども文化の流れを考える	斉 藤 次 郎 氏
3. 8	子どもと共につくる 文化運動	地域で親と子が共に育つ文化活動は どうすればできるか	梶 原 ま さ 子 氏 (少年少女センター)

子ども会指導者研修会「子どもの生活と子どもの役割」

「あそびを知らない」「手先が不器用」「からだがおかしい」等、子どもたちの危機が様様なかたちで叫ばれている現在、子どもたちが豊かに、健やかに育つようにするために、大人は何をすればよいのかを学ぶ機会として実施した。

期 間 昭和58年11月10日(木)～11月21日(月) 午前10時～正午 全3回

会 場 白梅分館

参加者 32人 延51人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
11. 10	子どもの生活実態と 問題点	子どもの生活実態、体や成長に対するゆがみなど、いま子どもたちにあ らわれている問題を明らかにする。	南 里 悦 史 氏 (都立教育研究所)
11. 17	子どもの学力と日常 生活	テレビ視聴、通塾、遊び、手伝い、 親子の会話など日頃の生活が、子ど もの学力にどのように影響している のかを学ぶ。	〃
11. 21	地域の子育てを考え る	地域の子育てを武蔵野市の「あそぼ うかい」の実践から学ぶ。	土 岡 小 竹 絵 氏 (あそぼうかい)

総 括 この研修会の中心となる「地域の子育てを考える」の参加者が前2回に比べ、
極端に減ってしまったのが、非常に残念であった。

公民館のつどい

昨年の公民館のつどいの反省会をもとに、今年度は話し合いを中心にしたつどいとなった。
準備の過程などで昨年度に比較しても豊かなつどいになるよう、また、参加者の人々の意識
の盛り上りのもと、多くのサークルの人々が交流し合うように考えた。

期 間 昭和58年4月24日(日)～7月28日(木)

会 場 公民館各集会室

参加者 準備段階で延人数148人 7月9日・10日の両日で140人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
4. 24	第1回実行委員会	今年度のつどい案の提出と審議	
4. 27	第1回代表委員会	つどいの趣旨を確認のうえ具体的作業へ	

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
5. 1 5	第2回実行委員会	代表委員会で話し合われたプラン提示	宮 岡 一 雄 氏
5. 2 0	第2回代表委員会	アンケートからテーマの設定へ	
5. 2 7	第3回代表委員会	分科会や全体会などの具体的審議へ	
6. 5	第3回実行委員会	分科会の内容、ねらいなどの説明	
6. 1 0	第4回代表委員会	参加申込者数から実行可能な分科会設定	
6. 1 5	分科会準備打合せ	担当者に集まってもらい段取りの説明	
6. 2 3	第5回代表委員会	最終的な話題の点検、宣伝方法など	
6. 2 6	第4回実行委員会	最後の実行委員会で種々の確認	
7. 9	交 流 会	ゲーム、吹奏楽愛好会の演奏、自己紹介	
7. 1 0	つどい本番	4分科会で話し合い	
7. 2 8	反 省 会	今年度のつどいの反省	

総 括 今年のつどい終了後、参加者有志の方々を中心にして、たいへん立派な報告書（記録集）ができた。また、女の分科会に参加した人々で、自主的に女のつどいを継続的に行っている。このことにはこれからも援助して行きたい。

松林利用者交流会

分館がよりよい機能を発揮できるように、分館と利用者間の交流、情報交換等を目的とした。

期 間 昭和58年9月14日(水) 59年3月28日(水) 全2回

会 場 松林会館

参加者 15人 延30人 18サークル

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
9. 1 4	第1回利用者交流	だれでもなんでも展について、館への要望	担 当 職 員
3. 2 8	利用者学習会	公民館とサークル活動	千 野 陽 一 氏 (東農工大)

第4回だれでもなんでも展（松林分館文化祭）

地域に開かれた文化祭をめざし、(1) 地域に手づくりの文化を育てるために、(2) 市民のふれあいの場に、(3) 分館の活動を地域に広め、地域の人々が気軽に参加できる文化祭を目

標と、実行にあたっては、利用者交流会が主体となって、「だれでもなんでも展すすめる会」を結成し、準備委員、参加作品を公募した。

期 間 昭和 58 年 9 月 21 日(水)～昭和 58 年 10 月 26 日

会 場 松林分館

準備過程

月 日	テ ー マ	内 容
9. 21	第 1 回実行委員会	「だれでもなんでも展すすめる会」発足、今年のテーマ検討
9. 28	第 2 回実行委員会	今年のテーマの検討
10. 5	第 3 回実行委員会	各サークル、出品数、ポスター、チラシ作成
10. 7	模擬店実行委員会	模擬店の内容
10. 12	第 4 回実行委員会	全体の動きの確認
10. 19	第 5 回実行委員会	作品募集の〆切、展示場、演示場の確認
10. 21	第 6 回実行委員会	だれでもなんでも展準備
10. 22 23	だれでもなんでも展	だれでもなんでも展
10. 26	反 省 会	

58 年だれでもなんでも展、主旨

総合テーマ、求めよう、ふれあいの輪(和)を

- (1) 手づくりの素朴なふれあいの輪を地域に
 - (2) 語れる広場の設定
 - (3) サークル作品、地域の人々の作品とのふれあいを
 - (4) 「展」に向けて、多くの人々の参加を求めよう
 - (5) 利用者が公民館を拠点にして、地域に文化の輪を拓げる活動をする
- という総合テーマと 5 つの柱が決定した。

10 月 22 日 午後 1 時～5 時

作品展 書道、七宝焼、陶芸、レザークラフト、絵、木彫、手芸

喫茶コーナー

映画、イーハトーブの赤い屋根

10 月 23 日 午前 10 時～5 時

作品展 書道、七宝焼、陶芸、レザークラフト、絵画、木彫、手芸

自作実演コーナー 陶芸、七宝焼

模擬店	やきそば、おでん、 喫茶コーナー
話しあい広場	「自立ってなにかしら」
人形劇	人形劇団 小さな仲間たち 「こねこはどうしてなくのをおぼえたか」 「とんだあおむし」
映画	「イーハトーブの赤い屋根」
参加人数	3 3 5 5 人 1 8 サークル
松 林 文 庫	

地域の子どもたちに、すぐれた児童文化財を提供していく場として、地域の母親たちと共催した。

期 間 昭和58年4月7日(木)～昭和59年3月30日(木) 毎木曜日

全 49回

会 場 松林会館

参加人数 延 859人

子どもフェスティバル

人形劇団「小さな仲間たち」か「マンガクラブ」に呼びかけ、子どもの手による、子どものための祭をめざし、フェスティバルを開催した。

準備過程

月 日	経 過
12. 5	第1回フェスティバル打ち合せ、フェスティバルのイメージ、リーダー班の編成
19	フェスティバルのイメージづくり
1. 9	出しものの選出
23	実行委員長の選出と決定、役割分担
2. 6	班編成の決定
20	おかしや、ヤキソバ班、ガラクタ市、工作コーナー等の必要な道具の検討
3. 13	班会議で班名、班目標、今後の予定をたてる
20	各班での準備と話しあい
27	〃
4. 3	〃
10	〃

月 日	過 程
4. 1 7	各班での準備と話しあい
2 4	全体の進行状況の点検
2 9	各班のアピールの作成、ワッペンのデッサン募集、当日の予定作成
5. 1	こいのぼり、大型ワッペンの作成
5	リーダーだけの作業、リーダーの予定
7	フェスティバルの準備
8	第1回子どもフェスティバル

当日の催物

ガラクタ市、おばけ屋敷、模擬店（やきそば、おこのみ焼き、ベッコウアメ、クッキー） 人形劇（マンガクラブ、人形劇団小さな仲間たち） 大人の人形劇（タイニーワークショップ） 当日参加者 670人

総 括 準備過程では、小学生から大学生まで全体で73名の子どもたちが集まった。
子どもたちが、6ヶ月という長期間に、1つの目標を持って、みんなで考え、
みんなで力を合わせて仕事をしていくと経験は大変重要なものである。

第2回「白梅会館利用者発表会」

利用しているグループ間の交流、親睦をはかり、自分たちの活動を地域へ広げていくことを目的とした発表会が、利用者による実行委員会ですすめられた。

実行委員会日程

日 時	内 容	参 加 団 体
4月 6日（水） 午後7時30分～9時30分	演示、展示からの報告 プログラム検討、これからの日程	15団体
4月16日（土） 午前10時～正午	展示グループの部屋のかざりつけについて	8団体
5月 8日（日） 午後1時～4時	プログラムづくり 立看板、めくり作成	22団体
5月27日（金）	展示グループの作品搬入、展示	8団体
5月28日（土）	第2回 白梅会館利用者発表会	22団体
5月29日（日）		
5月30日（月） 午後7時30分～9時30分	反省会、発表会ビデオ鑑賞 各グループからの意見、アンケート結果	22団体

発表会のプログラム

5月28日(出)

展示 手芸、藤細工、パッチワーク、木彫、生花、ヨガ、文庫

演示 お茶席

うたと映画のひろば

5月29日(日)

展示 手芸、藤細工、パッチワーク、木彫、生花、ヨガ、文庫

演示 民謡、民謡、詩吟、囃子、コーラス

参加団体数 22団体

入場者数 延526人

総括 発表会を見に来た人も充分楽しめる工夫が必要である。藤細工の実演コーナーは好評だった。

白梅利用者研修会

公民館の役割とグループ活動の意味を考える機会として実施した。

期 日 昭和59年3月1日(木)

会 場 白梅分館

参加者 31人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
3. 1	公民館とは何か	公民館とは 公民館の役割	小林文人氏 (東京学芸大学)

第3回「白梅会館利用者発表会」実行委員会

利用者研修会で、発表会を実行委員会を組織してすすめていくことが決定された。

日 時	内 容	参加団体
昭和59年3月15日(木) 午後7時30分～9時30分	どんな発表会にするか、発表会の日時 どんな参加のしかたをするか	17団体
昭和59年3月22日(木) 午後7時30分～10時	発表会のタイムスケジュールと会場 これからのすすめかた	11団体
昭和59年3月30日(金) 午後7時30分～9時30分	展示グループの部屋わり、当番について 展示に必要な消耗品	6団体

子どもまつり

子どもたちが統一したテーマにとりくんでいくことで、やりとげることの喜びを味わう機会として実施した。

期 間 昭和58年9月3日(出)～11月5日(出) 午後2時～4時(10月30日のみ
午前10時～午後4時) 全10回

会 場 白梅分館

参加者 実行委員会参加者23人 延114人

当日参加者260人

月 日	テ ー マ	内 容
9. 3	オリエンテーション	プログラムの説明、自己紹介
9. 10	おまつりの企画	どんなおまつりにするか話し合う
9. 17	当日向け詳細準備活動	割ばし鉄砲づくり
10. 1	〃	ポスター・チラシづくり
10. 8	〃	かん馬づくり、王かんバッジづくり
10. 15	〃	王かんバッジづくり
10. 22	〃	当日の役割分担
10. 29	〃	アンケート用紙づくり、会場づくり、チラシ配布
10. 30	子 ど も ま つ り	
11. 5	反 省 会	ま と め

子どもまつりの内容

実行委員の子どもたちを中心に、「工作広場」「らくがき広場」「ゲーム広場」「かん馬広場」「こまライセンス広場」「がらくた交換広場」「わたあめ広場」の7つの広場を開設した。

総 括 実行委員として集まった子どもは23人いたが、そのうち男子は3人と非常に少なかった。子どもまつりも3回目だが、当日参加者は年々増えている。

松林分館ファミリーハイク

新緑の奥多摩を歩きながらの自然観察

期 間 昭和58年5月29日(日) 全1回

参加者 29人

コース

福生駅 電車 五日市駅 バス 笛吹 歩行1時間半 小樽峠 歩行50分 土表岳
歩行15分 日原峠 歩行1時間5分 浅間峠 歩行1時間10分 上川苔 バス 五日市駅
電車 福生駅

総括 あまり人の歩かないコースで、豊かな自然が残っていて、楽しい山歩き・自然観察の機会となった。

白梅ハイキング

自然にしみ、山歩きを楽しむ機会として実施した。

期 日 昭和58年11月20日(日)

場 所 津久井城址

参加者 28人

講 師 佐藤文子氏

総括 植物の観察にはやや時期おくれたが、晴天に恵まれ、紅葉があざやかであった。山歩きをするグループをさがしている人が数人いた。

松林ホームシアター

すぐれた作品を通して、子供達にすばらしい映像文化を提供する。

上映日	上映作品	上映時間	入場者
4月23日(日)	「はだかの王様」	午後1時半、3時 2回	70人
5月21日(日)	「古屋のもり」「鉢かつぎ姫」 「さる地蔵」	午後2時、3時 2回	123人
6月25日(日)	「がんばれがんばれサッカーズ」	午後1時半、3時 2回	80人
7月30日(日)	「ぼくとギターとおじいさん」	午前10時、午後2時 2回	50人
8月24日(日)	「おこりじぞう」「ピカドン」 「ヒロシマのうた」	午前10時、午後2時 2回	75人
9月25日(日)	「長くつしたのピッピ」	午前10時、午後2時 2回	110人

上映日	上映作品	上映時間	入場者
10月22日(出)	「イーハトーブの赤い屋根」	午後2時 1回	80人
10月23日(日)	〃	午後3時 1回	80人
11月26日(出)	「チルベンとあざらし」	午後2時 1回	65人
12月25日(日)	「アラジンとふしぎなランプ」	午前10時、午後2時 2回	60人
1月21日(出)	『かたりげきじょう』 出演 脇田万里子氏 他	午後3時 1回	63人
2月26日(日)	「すばらしい友だちアントニーノ」	午前10時、午後2時 2回	50人
3月25日(日)	「ちびっこギャング」	午前10時 1回	50人

計 956人

総括 今年度はホームシアターとして映画のみでなく、語り劇場を催すことができた。

白梅親子映画会

親子連れで見られるような作品をとりあげ、子どもたちにすぐれた映像文化を提供する機会として実施した。

上映日	上映作品	上映時間	入場者
4月24日(出)	はだかの王様	午前10時、午後2時 2回	125人
5月28日(出)	竜の子太郎	午後1時30分 1回	120人
6月26日(日)	がんばれ、がんばれ、サッカーズ	午前10時、午後2時 2回	30人
8月25日(木)	おこりじぞう・ピカドン ヒロシマのうた	午前10時、午後2時 2回	135人
10月22日(出)	イーハトーブの赤い屋根	午後7時30分 1回	33人
10月23日(日)	〃	午前10時 1回	35人

上映日	上映作品	上映時間	入場者
12月24日出	アラジンとふしぎなランプ	午後1時30分、3時 2回	115人
2月25日出	すばらしい友だちアントニーノ	午後1時30分、3時 2回	75人
3月24日出	ちびっ子ギャング	午後1時30分、3時 2回	45人

計 713人

映画の広場

市民に身近なところで気軽に映画鑑賞ができる機会を提供するとともに、映画を通して様々な問題について考える機会として実施した。

上映日	上映作品	上映時間	入場者
7月2日出	ニホンザル母の愛・ライチョウ	午後3時	30人
9月17日出	自転車泥棒	午後3時、7時30分	63人
11月12日出	東大寺大仏殿昭和の大修理	午後3時、7時30分	20人
1月21日出	からだ作りと子どもの心・心を育てる子どもの遊び	午前10時、午後2時	17人
3月3日出	にんげんをかえせ・ヒロシマ原爆の記録	午後2時、7時30分	142人

計 272人

高齢者

語らいの広場

高齢期の生活が生きがいあるものとなるために、その生活経験を活かし、社会変化をとらえ、同世代のつながりから若い世代の交流をもとめ、学習・文化活動の結びつきの中で、以下のとおり実施した。

期 間 昭和58年9月2日～昭和59年3月14日（運営会議含む全13回）

会 場 公民館

参加者 (25人×10回) + (10人×3回) = 280人

回	月 日	主 題		内 容	講 師 等
1	9月 2日	運 営 会 議 Ⅰ		今年度の目標・展開・方法ほか P R等について	話し合い打合
2	9月 9日	第1回	はじめに	高齢期の自己熟成と社会参加に ついて	原 田 正 二 氏 (大正大学教授)
3	9月28日	第2回	生きる確かな ものをもとめ て	自 然 と 人 間 に つ い て	宮 岡 一 雄 氏 (明治大学教授)
4	10月13日	第3回		人 間 生 活 と 気 象 に つ い て	近 藤 喜 吉 氏 (気象協会)
5	10月27日	第4回		禅のはなし 子どもの育成について	服 部 照 親 氏 (千手院住職)
6	11月17日	運 営 会 議 Ⅱ		これまでの動向と以後の展開	話し合い打合
7	12月 6日	第5回	親 睦 会	忘 年 会	
8	1月20日	第6回	現代と学習	高齢期をめぐる生活と学習 ”家族・地域の編力”	小 林 文 人 氏 (学芸大学教授)
9	2月 1日	第7回	異なる世代との 交流にむけて	若い世代との交流の意義と方法	原 田 正 二 氏 (大正大学教授)
10	2月20日	運 営 会 議 Ⅲ		若い世代交流会にむけての準備	話し合い打合
11	2月26日	第8回	交 流 会	青年サークルの人達との交流	青連協各サークル から
12	3月 7日	第9回		育児期のお母さん達との交流	自主幼児室保護者 会から
13	3月14日	子どもの成長をねがい		子どもの成長を願う、若者、 親、おとなのひろば	パネラー 鈴木千穂さん(学生) 大堀容子氏 服部照親氏 宮岡一雄氏

総 括 話し合い学習のコースを柱に、今年は、高齢者の生活経験と講師の話題提供から、人間として生きる確かなものを見つめ、異世代との意見交換から、身近な生活の場で子どもの望ましい育成について考える機会となった。高齢者間の人生経験を豊かに交わし、趣味文化活動を通しての仲間づくりの広がりむけて更によりよい場づくりについて研究をすすめる。

語らいの広場文化事業「木彫」

語らいの広場の一環として、熟年の方々はじめ、若い世代の人達を混え、創ることを通して感性を磨く機会として実施。版画、レリーフから研ぎを通して立体へ。版画による年賀状づくりからすすめた。

期 間 昭和58年11月30日～59年2月15日 全10回

会 場 公民館

参加者 13人×10回=130人

講 師 彫刻家 合津真治氏

市民会館主催事業

1. 目 的

会館は、市民の文化・芸術の拠点として、また豊かな人間性をはぐくむ場として、会館のもつ機能、設備を内容面で市民に還元してゆくことを目的としている。

その一環として、市民会館主催事業は、市民によりよい鑑賞の機会を提供し、生活の潤い、いこい、また文化、芸術の創造の契機となるよう行われる。それは、市民が鑑賞者として、“すばらしいもの”を愛する心を、いつまでも持ち続け、会館が主催者として、市民の求める“すばらしいもの”を十分に検討し、それに対応するという相互のより高い調和を目的とし、開催する。

2. 目 標

定着化したオーケストラコンサート、ポピュラーコンサート、落語鑑賞会、映画会と、新たに演劇を加え、幅広いジャンルからの企画により、多くの市民の参加を望んでいる。

また、主催事業の内容の充実とともに、催しを全市民に知ってもらうため、宣伝活動の徹底を心がける。

公演種目	日 時	会 場	入 場 料	発売人数	出 演 者
落語鑑賞会	昭和58年 6月18日(出)	市民会館 小ホール	前売券 400円 当日券 450円	169人	柳家ゞ治・林家時蔵 古今亭志ん八・入船 亭扇好・古今亭志ん 橋

公演種目	日 時	会 場	入 場 料	発売人数	出 演 者
高橋真梨子 コンサート	昭和58年 12月17日(土)	市民会館 大ホール	ペアシート 3,500円 指定・2,000円	964人	高橋真梨子
ふっさニュー ーイヤーコ ンサート	昭和59年 1月22日(日)	市民会館 大ホール	指定 1,800円 自由 大人1,300円 小人 800円	704人	芥川也寸志 新交響楽団
ふっさファ ミリー劇場 「くびなし はていどん」	昭和59年 3月25日(日)	市民会館 大ホール	自由 大人1,200円 小人 600円	245人	劇団ひまわり

市民名画劇場

上 映 作 品	上 映 日	上映回数及び入場者
ローマの休日	5月14日(土)	午後・夜間 2回 197人
スティング	7月16日(土)	午後・夜間 2回 145人
おもいで の夏	9月 3日(土)	午後・夜間 2回 90人
道	11月 5日(土)	午後・夜間 2回 97人
炎のランナー	11月26日(土)	午後・夜間 3回 327人
タワーリング インフェルノ	1月28日(土)	午後・夜間 2回 183人
オール・ザット・ジャズ	3月17日(土)	午後・夜間 2回 119人

いずれも市民会館小ホール